



# PGI<sup>®</sup> Workstation/Server 2013 PGI<sup>®</sup> Accelerator<sup>™</sup> Workstation/Server 2013

Windows<sup>®</sup>版 (Release 2013)  
(コマンドベース・コンパイラ)  
- インストールの手引き -

PGI インストール関係の日本語ドキュメントは、以下の URL に全てアーカイブしてあります。実際のインストール手続きは、以下の Web ページを参考にさせていただいた方が包括的に理解できます。

[http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/inst\\_document.html](http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/inst_document.html)

2013 年 3 月版 (Rev. 13.3-A)

株式会社 ソフテック HPC ソリューション部

(<http://www.softek.co.jp/SPG/>)

**SofTek**

## 目次

<b>1</b>	<b>はじめに</b> .....	<b>1</b>
1.1	本文書の内容.....	1
1.2	PGI 製品のソフトウェア情報パッケージについて.....	1
1.3	ライセンス形態.....	1
<b>2</b>	<b>Web アカウントの確認とアカウントの有効化</b> .....	<b>2</b>
2.1	PGI WEB アカウントの事前確認(新規購入のお客様).....	2
2.2	現在使用中のお客様 (バージョンアップを行うお客様)の場合.....	2
<b>3</b>	<b>PGI コンパイラのインストール準備</b> .....	<b>2</b>
3.1	インストールする PGI コンパイラのソフトウェアの種別.....	2
3.2	以前のバージョンをインストールしている場合の留意点(バージョンアップの場合).....	3
3.3	PGI WORKSTATION/SERVER ソフトウェアのディレクトリ構造.....	4
3.4	PGI ACCELERATOR コンパイラ (GPU アクセラレータ機能付き) 製品のための事前準備.....	5
3.5	事前にインストールしなければならないソフトウェア (WINDOWS 8 SDK) .....	6
3.6	インストールに必要なディスク容量およびアプリケーション.....	6
3.7	PGI ソフトウェアの準備.....	6
<b>4</b>	<b>ソフトウェアのインストール</b> .....	<b>7</b>
4.1	PGI COMPILER FOR WINDOWS(R)版のインストール.....	7
4.2	ライセンスキーファイルの自動取得手続き.....	8
<b>5</b>	<b>手動でライセンスキーの設定を行う場合の方法</b> .....	<b>12</b>
5.1	正式ライセンスキーの取得.....	12
5.2	ライセンスファイル (LICENSE.DAT) の確認と配置.....	13
5.3	FLEXLM ライセンス・マネージャの起動.....	13
<b>6</b>	<b>PGI Server フローティング・ライセンスの設定</b> .....	<b>16</b>
6.1	他マシンにインストールして使用する際のライセンスの設定 (PGI SERVER 製品) .....	16
<b>7</b>	<b>その他</b> .....	<b>17</b>
7.1	PGI コンパイラソフトウェアのアンインストール.....	17
7.2	PGI COMPILER FOR WINDOWS® 版使用環境の準備.....	17
7.3	オンラインドキュメントの参照.....	18
7.4	更新ソフトウェアの適用 (リビジョンアップ) .....	18
<b>8</b>	<b>サポートサービスについて</b> .....	<b>18</b>
8.1	初期サポートサービス.....	18
8.2	ソフトウェア情報パッケージご購入ユーザのサポート窓口.....	19

# 1 はじめに

## 1.1 本文書の内容

本文書は、PGI Workstation/Server コンパイラ Windows® 版 製品のインストールおよびライセンス設定方法を記述したドキュメントです。

## 1.2 PGI 製品のソフトウェア情報パッケージについて

弊社にて PGI 製品の「ソフトウェア情報パッケージ (サブスクリプション)」を用意しております。ソフトウェア情報パッケージをご購入頂くことにより、以下のサービスが受けられます。

- サブスクリプション契約期間中におけるソフトウェア製品の無償バージョンアップ
- 電子メール等によるコンパイラ利用上のテクニカル・サポート
- 現在利用している製品より価格が上位の製品へのアップグレードにおける特典

同パッケージを未購入の方でも、製品出荷後 30 日間はインストールに関するサポートサービス（電子メールのみ）を受けることができます。ソフトウェア情報パッケージで提示しております内容を希望される場合は、本パッケージのご購入が必要となります。

ソフトウェア情報パッケージの有効期間は、出荷セットに同梱致しました「ソフテック エンドユーザ登録用紙」の「プロダクト情報」の欄に記載されておりますのでご確認ください。また、本パッケージは製品ご購入後 1 年間有効（製品ご購入時に設定される無償保証期間は含みません）とし、2 年目以降もご希望のユーザ様には、継続購入して頂く必要がございます。

## 1.3 ライセンス形態

PGI コンパイラのライセンス形態は、FLEXlm 形式のライセンスとなります。下記に本製品のライセンス形態と制限事項を説明致します。

表 1 ライセンスの形態

ライセンスタイプ	内容
FLEXlm 形式	任意のユーザアカウントでコンパイラを使用できます。コンパイルを同時に行えるユーザ数の制限があります。また、ネットワークカードが実装されている必要があること、およびライセンスサーバデーモンを起動する必要があります。

### PGI Workstation 製品 :

この製品は、1 台の特定されたシステム上でのみ（ノードロック形式）、かつ、同時に 1 名のみが PGI コンパイラを使用できます。したがって、このシステム上で、FLEXlm ライセンス管理ソフトウェアが動作します。

### PGI Server 製品 :

この製品は、同じネットワーク上の任意の Windows システムで PGI コンパイラをインストールし、使用できます。ネットワーク上で、コンパイルを同時に行えるユーザ数は、ご購入頂きました製品タイプによって異なります。ネットワーク上にライセンスを管理するための FLEXlm ライセンス管理サーバ（このサーバ上でコンパイラも動作させることができます）を立ち上げる必要があります。本書では、この「FLEXlm ライセンス管

理サーバ」となるシステムに、PGI コンパイラをインストールすることを想定して記述しています。

PGI のライセンスキーは、下記の動作を対象マシン（PGI Server ライセンスの場合は FLEXlm ライセンス管理サーバとなるシステムに対して）に行った場合、ライセンスキーが無効となり、ライセンスキーの再発行が必要となりますのでご注意ください。

- マザーボードを交換したとき
- ネットワークカードを別のスロットへ移動したとき
- ネットワークカードをマザーボードから抜き、新しいカードと交換したとき

## 2 Web アカウントの確認とアカウントの有効化

### 2.1 PGI Web アカウントの事前確認(新規購入のお客様)

PGI 製品ライセンスを新規に購入したお客様には、購入時のユーザ情報にもとづいて、PGI 社のライセンス管理用の Web アカウントが自動的に作成されております。このアカウント名は、登録ユーザの電子メールアドレスとなっており、本アカウントを最初に使用する前に、「アカウントの有効化(アクティベーション)」が必要です。

PGI コンパイラをインストールする前に、必ず、ご自身の Web アカウントの有効化を行ってください。PGI リリース 8.0 から、インストール中に、新規ライセンスキーファイルの自動取得手続きと自動でのライセンスファイルのセットアップができるようになりました。この手続きは、購入したお客様の Web アカウントが既に有効化されていなければできません。なお、インストール中にこうしたライセンスキーファイルの自動取得を行わずに、従来通り、別途、ご自身で PGI 社の Web サイトから入手する方法もできます。

アカウントの有効化(アクティベーション)に関する詳細は、別紙「PGI ライセンス発行の手引き」の 4 ページの 1.1 項に説明しております。あるいは、弊社 Web サイトの以下の URL にて、説明しておりますのでご参照ください。アカウントの有効化した後、改めてログインできるかどうかをご確認して下さい。

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/keyissue.html>

### 2.2 現在使用中のお客様(バージョンアップを行うお客様)の場合

現在、すでに PGI 製品ライセンスを有しており、コンパイラをお使いのお客様は PGI 社のライセンス管理用の Web アカウントを既にお持ちになっております。したがって、上記 2.1 項で述べたアカウントの有効化の作業は一切必要ありません。

## 3 PGI コンパイラのインストール準備

### 3.1 インストールする PGI コンパイラのソフトウェアの種別

PGI Workstation/Server for Windows 用のソフトウェアは以下のポイントからダウンロード可能です。PGI 2013 リリースから、PGI ソフトウェアは Windows 7/8/2008R2/2012 実装用と Windows XP/2003/2008 実装用の二つのパッケージに分けて提供されます。該当する OS に合ったソフトウェアを弊社からダウンロードしてください。

- Windows 7, 8, Server 2008R2, 2012 用のソフトウェアのファイル名

pgiws32-13\*.exe (32 ビット専用)  
pgiws64-13\*.exe (64 ビット専用)

● Windows XP, Server 2003, 2008 用のソフトウェアのファイル名

pgiws32-**xp**-13\*.exe (32 ビット専用)  
pgiws64-**xp**-13\*.exe (64 ビット専用)

① 32 ビット専用ソフトウェア (pgiws32-\*.exe というファイル名)

本ソフトウェアは、32 ビットの Windows® のみにインストール可能です。32 ビットモードのコンパイラ・システムがインストールされます。なお、このコンパイラでは、64 ビット用の実行モジュールは作成できません。

② 64 ビット専用ソフトウェア (pgiws64-\*.exe というファイル名)

本ソフトウェアは、64 ビットの Windows® のみにインストール可能です。32 ビットモードと 64 ビットモードの二つのコンパイラ・システムがインストールされます。従って、このコンパイラでは、32 ビット用並びに 64 ビット用の実行モジュールを作成できます。

### 3.2 以前のバージョンをインストールしている場合の留意点(バージョンアップの場合)

現在、PGI コンパイラを使用しているシステム上では、PGI ライセンス管理マネージャ (FLEXlm) が起動されておりますので、これを停止してください。Windows® の「コントロールパネル」を開き、「管理ツール」を起動します。管理ツールを起動した後、この中の「サービス」をクリックします。この中に、「PGI License Server」という名称のサービスがありますので、この項目をクリックして選択します。「サービスの停止」のアンカーがありますのでこれをクリックして停止してください。(5.3 項を参照のこと)

以前のバージョンをインストールしてある場合でも、ディスク領域に余裕がある場合は、アンインストールをせずに、過去のバージョンを残すことを推奨します (-V{番号} というコマンドオプションを指定することで、過去のリビジョンを使用できます)。もちろん、アンインストールすることも問題ありません。アンインストールは、Windows® の「コントロールパネル」の中の「アプリケーションの追加と削除」、Windows 7/8 上では「プログラムと機能」で行うことが可能です。

過去のバージョンをインストールしてある場合は、PGI コンパイラのインストールを行ったディレクトリの配下に license.dat がセットされております。予め、このファイルのバックアップを取っておくことをお勧めします。なお、インストール時に license.dat の上書きは行われません。

【デフォルトのインストール・ディレクトリ】

C:\Program Files\PGI\license.dat (このファイルのバックアップをとっておくこと)

PGI ソフトウェアのバージョンアップ、あるいはリビジョンアップの場合は、以下に示す URL にアクセスいただき、新 license.dat の取得が必要かどうかをご判断ください。現在、使用している license.dat でも新バージョンが有効となる場合は、PGI ソフトウェアのみを実装する作業となります。

(バージョンアップ、リビジョンアップの場合の対処)

[http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/inst\\_document.html#REVISIONUP](http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/inst_document.html#REVISIONUP)

### 3.3 PGI Workstation/Server ソフトウェアのディレクトリ構造

インストールするディレクトリをデフォルトのままで行った場合、以下のディレクトリ・パスにインストールされます。インストールを行うデフォルトのトップ・ディレクトリは、一般に、`C:\Program Files\PGI` となります。32 ビット Windows® (以下、「Win32」と言う。) の場合、並びに 64 ビット Windows® (以下、「Win64」と言う。) の場合は、以下のようなパス構造となります。以下のディレクトリ・パス名には、「13.x」と言った PGI のリリース・リビジョン番号が使用されています。PGI の正式メジャー・バージョン名は、西暦年を付けた PGI 2013 バージョンですが、内部の PGI ソフトウェア・バージョン管理では、過去のバージョン名と互換を保つため、2013 の末尾 2 桁の「13」を内部のバージョン番号として使用しています。

● Win32 環境での デフォルト・インストール・ディレクトリ

`C:\Program Files\PGI\win32\13.x`

● Win64 環境での デフォルト・インストール・ディレクトリ

`C:\Program Files\PGI\win64\13.x` (64 ビットモード)

`C:\Program Files (x86)\PGI\win32\13.x` (32 ビットモード)

※ 13.x は「バージョン番号」で、ソフトウェアのバージョンにより変化します。

さらに、以下の三つのディレクトリ ( Microsoft Open Tools、cygwin、FLEXlm ) が生成されます。

`C:\Program Files\PGI\Microsoft Open Tools 11`

`C:\cygwin` (cygwin の BASH シェル環境)

`C:\Program Files\PGI\flexlm` (ライセンス管理マネージャ)

【Win64 上でのインストールされるファイルの場所とそのイメージ】

Name of directory	Contents
<code>C:\Program Files\PGI\win64\13.x\bin</code> <code>C:\Program Files (x86)\PGI\win32\13.x\bin</code>	PGI コンパイラ、ツールのバイナリ
<code>C:\Program Files\PGI\win64\13.x\lib</code> <code>C:\Program Files (x86)\PGI\win32\13.x\lib</code>	PGI コンパイラ、ツールのライブラリ
<code>C:\Program Files\PGI\win64\13.x\include</code> <code>C:\Program Files (x86)\PGI\win32\13.x\include</code>	PGI コンパイラのヘッダファイル
<code>C:\Program Files\PGI\win64\13.x\REDIST</code> <code>C:\Program Files (x86)\PGI\win32\13.x\REDIST</code>	再配布用の PGI ランタイムライブラリ
<code>C:\Program Files\PGI\win64\13.x\doc</code> <code>C:\Program Files (x86)\PGI\win32\13.x\doc</code>	ドキュメント
<code>C:\Program Files\PGI\win64\13.x\man</code> <code>C:\Program Files (x86)\PGI\win32\13.x\man</code>	コマンドの man ページ
<code>C:\Program Files\PGI\Microsoft Open Tools 11</code>	マイクロソフト・ツール

C:¥cygwin	Cygwin ツール
-----------	------------

【Win32 上でのインストールされるファイルの場所とそのイメージ】

Name of directory	Contents
C:¥Program Files¥PGI¥win32¥13.x¥bin	PGI コンパイラ、ツールのバイナリ
C:¥Program Files¥PGI¥win32¥13.x¥lib	PGI コンパイラ、ツールのライブラリ
C:¥Program Files¥PGI¥win32¥13.x¥include	PGI コンパイラのヘッダファイル
C:¥Program Files¥PGI¥win32¥13.x¥REDIST(-RLR)	再配布用の PGI ランタイムライブラリ
C:¥Program Files¥PGI¥win32¥13.x¥doc	ドキュメント
C:¥Program Files¥PGI¥win32¥13.x¥man	コマンドの man ページ
C:¥Program Files¥PGI¥Microsoft Open Tools 11	マイクロソフト・ツール
C:¥cygwin	Cygwin ツール

### 3.4 PGI Accelerator コンパイラ(GPU アクセラレータ機能付き)製品のための事前準備

PGI Accelerator Workstation/PGI Accelerator Server ライセンス製品の場合は、NVIDIA 社 GPU の CUDA 用ドライバ を事前にインストールしていただく必要があります。NVIDIA 社の CUDA 用ソフトウェアの説明とその入手は、以下の URL で可能です。各 OS 用のソフトウェアが提供されておりますので、適切なものを入手し、事前にインストールをお願いします。検索エンジンで、「CUDA toolkit」で検索してくださいあるいは、以下の NVIDIA 社のページから、「GET Latest CUDA Toolkit Production Release」のアイコンをクリックして下さい。

<http://developer.nvidia.com/cuda-toolkit>

DOWNLOAD ページに移り、各 OS の CUDA ソフトウェアのアイコンが表示されますので、該当するアイコンをクリックしてダウンロードしてください。CUDA ソフトウェアは、以下の 3 種のソフトウェアを一つに纏めた形となっております。

1. CUDA ドライバ
2. CUDA ツールキット
3. CUDA SDK コードサンプル

上記のうち、PGI Accelerator で必要とするソフトウェアは、CUDA ドライバのみです。「CUDA ツールキット」の中に含まれる CUDA ライブラリやアセンブラ等の PGI コンパイラに必要な tools は、PGI ソフトウェアの中にバンドルされ (PGI 2013 では、その時点に対応する CUDA Toolkit バージョンがバンドルされています)、自動的にインストールされますので、PGI コンパイラの用途だけということであれば「CUDA ツールキット」の実装は必要ありません。「CUDA SDK コードサンプル」も PGI の用途には、インストールする必要がありません。

但し、一般的な NVIDIA 社が提供する CUDA 環境をきちんと構築しておくということであれば、NVIDIA 社が推奨する方法で、上記の三つのソフトウェアをインストールしておくことをお勧めします（デフォルトでは全部実装されます）。

### 3.5 事前にインストールしなければならないソフトウェア(Windows 8 SDK)

Windows 7、Windows 8、Windows Server 2008 R2/2012 のシステムの場合のみ、必ず以下の **Microsoft Windows 8 Software Development Kit (SDK)** の事前導入が必要です。PGI ソフトウェアをインストールする前に、必ず実装してください。また、Windows 8 SDK をインストールする前に「.NET Framework 4.5 の再頒布可能パッケージ」をインストールしておく必要があります。このリリースの Windows 8 SDK には、.NET Framework の再頒布可能パッケージは含まれていません。.NET Framework 4.5 が実装されているかどうかの確認は、「コントロールパネル」--「プログラムと機能」画面において可能です。繰り返しますが、Windows 8 SDK は、以下のシステムにおいてのみ適用出来ます。Windows XP には適用出来ませんのでご注意ください。(Windows XP には、このソフトウェアは必要ありません)

- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows 7
- Windows Server 2008 R2

Microsoft Windows 8 Software Development Kit (SDK) ソフトウェアのダウンロードポインタは、以下の URL となります。

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/windows/hardware/hh852363.aspx>

なお、Windows 8 SDK のインストールが終わった後、一度、Windows システムをリポートすることをお勧めします。

### 3.6 インストールに必要なディスク容量およびアプリケーション

PGI コンパイラをインストールする際は、一時的に約 800MB のハードディスク容量が必要になります。インストールするマシンのディスク容量を事前にご確認下さい。

### 3.7 PGI ソフトウェアの準備

本コンパイラ製品をインストール際は、「システム管理者権限」でインストールを行ってください。なお、すでに PGI の評価版ソフトウェアをインストール済みの場合は、正式なライセンスキーのセット手続きのみとなりますので、4.2 項の手続きを行ってください。なお、4.2 項の説明は、インストール中に現れるものとして説明していますが、この「License Generation」を独立に行う方法があります。Windows の「スタート」->「すべてのプログラム」->「PGI Workstation」->「Licensing」->「Generate License」を選択しますと、4.2 項の説明の「License Generation」ダイアログが現れます。これに従って、正規のライセンスセットアップを行って下さい。

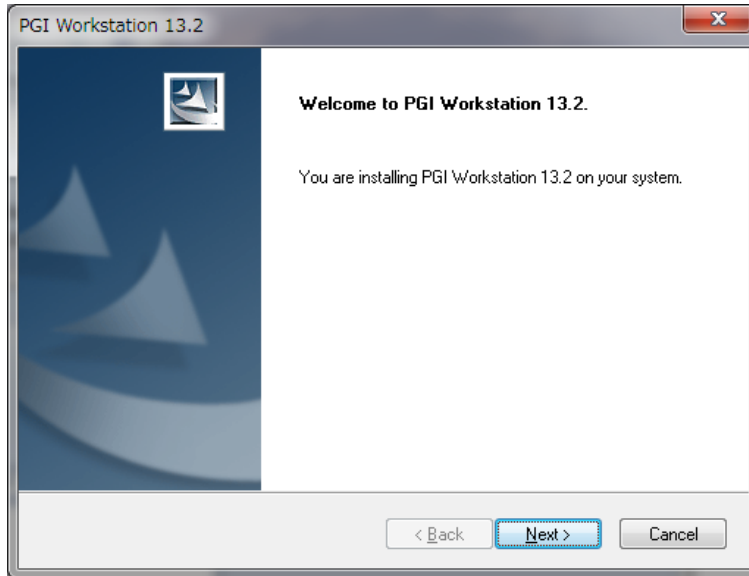
PGI コンパイラのソフトウェアは、PGI 社あるいは、弊社のサイトから最新（直近）のソフトウェアをダウンロードしてご使用ください。なお、ソフトウェアは定期的にバグフィックス・リリースをしておりますので、最新ファイルをダウンロードしてインストールしてください。PGI 製品ソフトウェアをダウンロードは、別紙「PGI コンパイラ製品ダウンロードの手引き」を参考にコンパイラ製品をダウンロードして、Windows 上の一時的なフォルダ内に保存してください。



## 4 ソフトウェアのインストール

### 4.1 PGI Compiler for Windows(R)版のインストール

ダウンロードした自己解凍形式の `pgiws32-***.exe` (32 ビット専用版) あるいは、`pgiws64-***.exe` (64 ビット専用版) のいずれかのファイルをダブルクリックすることで、インストールが開始されます。ウィザードに従って、インストール手続きをお進めください。(以下の初期画面が出るまで、多少お時間が掛かります)



ウィザード画面は、以下の順番で進行します。

- PGI License Agreement の使用許諾確認
  - ACML ライブラリのインストールの可否と使用許諾確認
  - NVIDIA CUDA Toolkit のインストールの可否と使用許諾確認 PGI Accelerator コンパイラのライセンスの場合は、必ずインストールして下さい
  - MS-MPI ライブラリのインストールの可否と使用許諾確認
  - Java Runtime 環境のインストールの可否と使用許諾確認
  - Cygwin 環境のインストールの可否と使用許諾確認 (Cygwin が実装されていない場合、あるいは、古いバージョンの cygwin が実装されていた場合は、cygwin (Unix-Bash シェル環境ユーティリティ)のインストールを行うかの確認が行われます。インストールしてください。)
  - ユーザ情報入力 (名前、会社名)
  - インストールするディレクトリ名の確認 (32/64 ビットの場合は、64 ビット用と 32 ビット用の二つのディレクトリ名を確認する)
  - コンパイル時にオブジェクトの一次的な中間ファイル使用するフォルダを指定します。デフォルトは、`C:\temp` です。指定されたフォルダは存在しなければ自動的に作成されます。
  - Windows®システム上に登録される「プログラムフォルダ名」の確認
  - デスクトップ上にショートカットを作成するかの確認
  - Check Setup Information の確認画面
- (その後、インストールが開始されます。多少時間が掛かります)

## 4.2 ライセンスキーファイルの自動取得手続き

インストールは引き続き行われ、「インターネットを経由したライセンスキーの自動的な取得と FLEXlm ライセンス管理マネージャの自動起動」を行うかどうかを選択できます。但し、自動ライセンスキーのセットアップができない場合もあります。以下のようなシステム条件の場合は、ウィザードによる自動取得手続きは失敗しますので、従来通り、5章で説明する手動で新ライセンスキーの取得とセットを行う必要があります。

### (自動ライセンスキー取得時の制限事項)

- Ethernet ポートが二つ以上有したシステムの場合は、自動取得が**失敗します**。root コマンド `ifconfig` を実行して 2 個以上の `ethX` ポート (`eth0, eth1, ...`) が存在する場合は、インストール時の自動取得手続きの中で「Do you wish to generate license keys?」を **No** にしてください。
- PGI Server ネットワークフローティング・ライセンスの場合で、「FLEXlm ライセンスサーバ」の構成を 3 台のサーバによる冗長構成で行う場合は、「ライセンスキーの自動取得手続き」は**行えません**。この場合は、5章で説明するオフライン（手動）でライセンスキーを取得して下さい。

インストール中におけるこの自動取得手続きは、ソフトウェアのインストール終了後、別に行うこともできます。また、自動取得手続き中に、何らかの問題でエラーとなった場合でも、インストール処理が終了した後に、別途、再度、以下の「スクリプト・コマンド」で自動取得手続きを行うことができます。Windows の「スタート」->「すべてのプログラム」->「PGI Workstation」->「Licensing」->「Generate License」を選択しますと、本項の説明「License Generation」ダイアログが現れます。

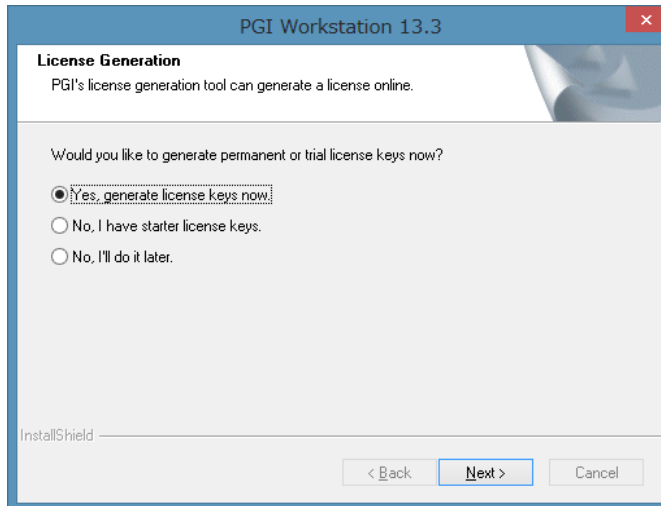
### ① 自動取得手続きを行う場合の注意

このまま、以下に述べる手続きを行って下さい。「License Generation」ダイアログの問いに対して、「はい」を選択して下さい。但し、このステップを行うためには、必ず、PGI 社の個人 Web アカウントが既に有効化されていなければいけません。個人用の「Web アカウント」に関しては、本書の 2 章をご覧いただいた上で、別紙「PGI ライセンス発行の手引き」を参考にして、PGI 社のシステムへログインできるかどうか、購入したライセンス PIN 番号が登録されているかどうかをご確認下さい。

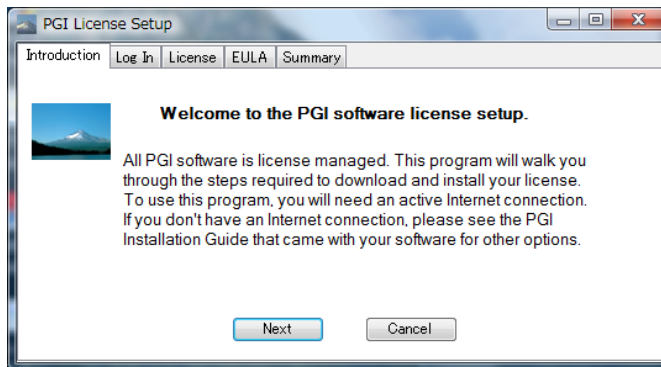
さらに、インターネットへ接続できる環境（プロキシ経由でも可能）でなければ、この自動取得手続きはできませんので、「No, I' ll do it later」として、インストール後、別のシステムからご自身の Web アカウントで PGI サイトにログインして、ライセンスキーを取得して下さい。

### ② 自動取得は行わずに、後で、オフライン（手動）でライセンスキーを取得する場合

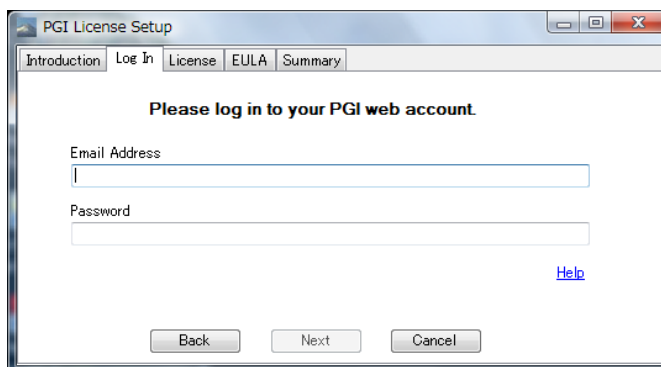
以下の「License Generation」ダイアログの問いに対して、“No, I' ll do it later”を入れてください。この場合は、いくつかの確認用ダイアログが出て、PGI のソフトウェアのインストール作業は終了します。この状態で、PGI ソフトウェアの実装は全て終了していますが、ライセンスキーの設定等は未了ですので、5章の作業を実施して下さい。



これ以降、ライセンスセットアップ手続きとなりますが次の画面が現れるまで、多少時間が掛かる場合があります。「Next」を押して下さい。

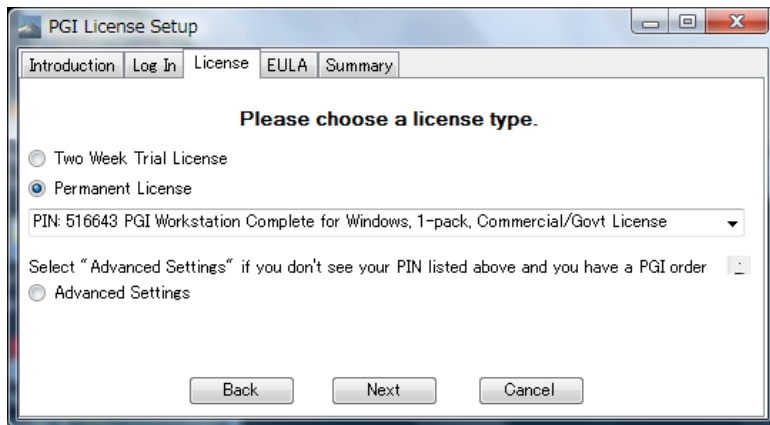


Web アカウント名（登録した電子メールアドレス）とパスワードを入力してください。「Next」を押して下さい。

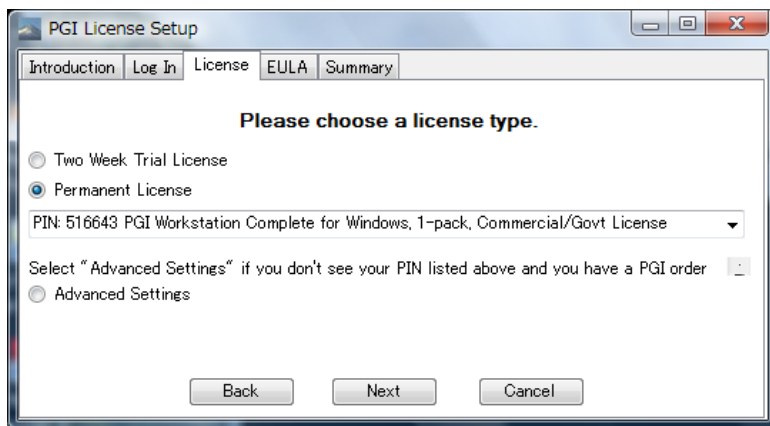


その後、お客様が購入しているライセンス製品のリスト表示の画面に移行します。「Permanent License」をチェックし、「Please select a PIN」をクリックすると購入製品のリストがプルダウンします。当該製品ライセンスを選択し「Next」を押して下さい。

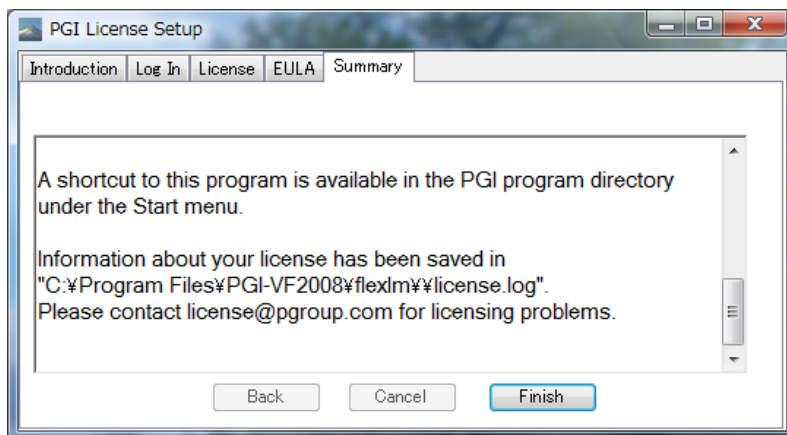
当該製品ライセンス PIN を選択し「Next」を押して下さい。



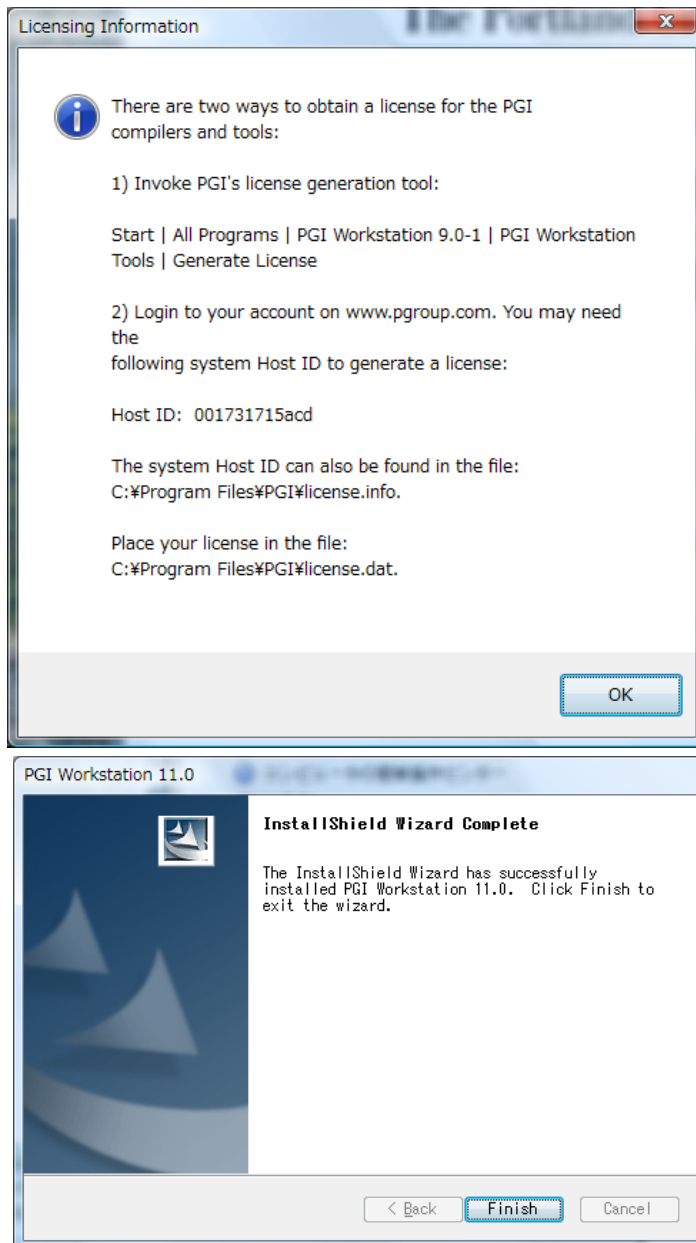
ライセンス使用許諾書を確認してください。



以下のメッセージ(一例)によって、C:¥Program files¥PGI¥license.dat の設置と、PGI License Manager というライセンス管理デーモンを自動的にスタートさせます。



次に、ライセンスの取得方法を改めて説明するダイアログ等が出てインストールが終了します。



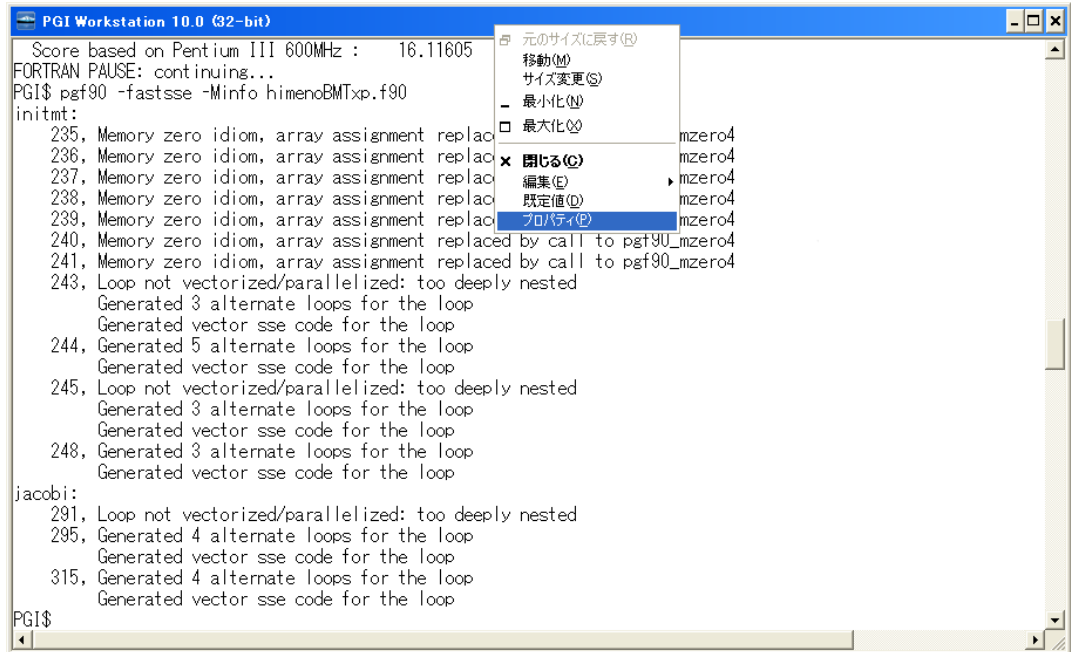
PGI ソフトウェアのインストールとライセンス管理マネージャの設定を完了します。上記の手続きがエラー無く成功した場合は、インストール並びにライセンスのセットアップがすべて終了したことになります。なお、PGI ソフトウェアのインストール後は、一回、Windows システムの再起動を行うことをお勧めします。特に過去の PGI バージョンが存在する場合は、新ライセンス・マネージャ (Imgrd V11.11) の再起動を行いますのでリブートを必ず行って下さい。

ライセンスキーの取得をオフラインで行う場合、あるいは、新規購入のお客様の中でライセンスファイルの自動取得を行えなかった場合は、新バージョン用のライセンスキーの再取得とセットアップが必要ですので、引き続き、5 章をご覧ください。

さて、システムを再起動後、デスクトップ画面上に、「PGI Workstation」と言うアイコンが現れます。次に、このアイコンをクリックすると、以下のような PGI コマンド・プロシ

プト（ウインドウ）が現れます。このウインドウのサイズ等の「プロパティ」を変更するには、ウインドウ上部（青地）にカーソルを置き、右クリックで下記のようなプルダウンメニューが現れますので、この中の「プロパティ」で変更してください。

(PGI コマンド・プロンプトのウインドウ)



### 手動でライセンスキーを入手する場合

新規ライセンスキーファイルの自動取得手続きと自動でのライセンスファイルのセットアップは、コンパイラを実装するシステムがインターネットに接続できる環境が必要となりますので、この環境ではない場合、手動でライセンスキーファイルを別に取得してセットアップする方法もあります。この場合は、別紙「ライセンス発行の手引き」をご参照いただき、PGI社のライセンス管理サイトにログインして、ライセンスキーを取得してください。その後、5章の手続きを進めてください。

(ご参考)

[http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/keyissue.html#web\\_login](http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/keyissue.html#web_login)

## 5 手動でライセンスキーの設定を行う場合の方法

この章では、ライセンスキーをオフラインで（手動で）PGI社のサイトから取得した後、その設置とFLEXlmライセンス管理マネージャの設定の方法を説明します。前章で「ライセンスキーの自動取得」等の作業で、インストールが成功している場合は、以下の5.1~5.3項の作業は必要ありません。

### 5.1 正式ライセンスキーの取得

PGI社のライセンス管理サイトにおいて、現在使用しているマシン用のリリースアップされたライセンスキーを入手することができます。ライセンス入手方法につきましては、別紙「ライセンス発行の手引き」の3章をご参照下さい。あるいは、弊社ホームページの以下のURLをご覧ください。

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/keyissue.html#003>

## 5.2 ライセンスファイル(license.dat)の確認と配置

FLEXIm 形式の取得したライセンスキーは下記のような形態となります。

```
SERVER {ホスト名} <hostid> 27000
DAEMON pgroupd
PACKAGE PGI2013-workstation-complete pgroupd 2014.0131 647AB8016B00 ¥
COMPONENTS="pgi-f95-win64 pgi-f77-win64 pgi-cc-win64 ¥
pgi-cpp-win64 pgi-f95-win32 pgi-f77-win32 pgi-cc-win32 ¥
pgi-cpp-win32 pgi-pvf pgi-prof pgi-dbg pgi-dbg-gui" ¥
OPTIONS=SUITE SIGN="1CBA 53C8 415C 8C4C F642 8C58 7D35 A466 ¥
88DA 9B7E 8873 D1FA 05F4 D0C8 8B0F 083A 5646 3201 7ECA 5966 ¥
7383 18D2 118A DC0B E217 7E70 84AC F3E3 02B4 71AC"
FEATURE PGI2013-workstation-complete pgroupd 2013.0131 permanent 1 ¥
4B50D4D57804 VENDOR_STRING=521010:8:ws:accel ¥
HOSTID=90e6ba7ccdf1 DUP_GROUP=U SUITE_DUP_GROUP=U TS_OK ¥
SIGN="18B0 7C69 3445 E9BA D9AE A547 21F1 EDD0 3EB8 7F89 64E3 ¥
D9CE BB84 5D6E B2F5 1871 5EAA 3767 A333 BA5B 81A0 2065 1AB6 ¥
5250 8497 8914 CBAA 5249 BA37 B169" (以下、省略)
```

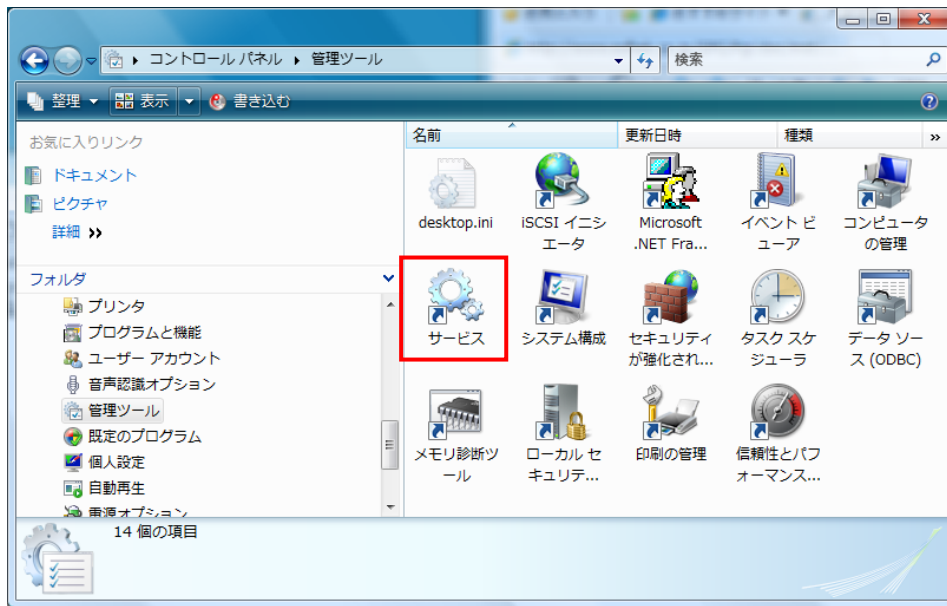
上記のような取得した新ライセンスキーを確認した上で、PGI コンパイラをインストールした Windows システム上のインストール・ディレクトリ (例: C:\¥Program Files¥PGI ) 直下に license.dat ファイルとして配置 (同名のライセンスファイルを上書き) します。

license.dat の一行目 (SERVER 行) には、インストールしたマシンのホスト名が記述されており、この内容が正しいことを確認してください。これ以外に変更しないでください。以上で、正式ライセンスの取得と設定は終了です。

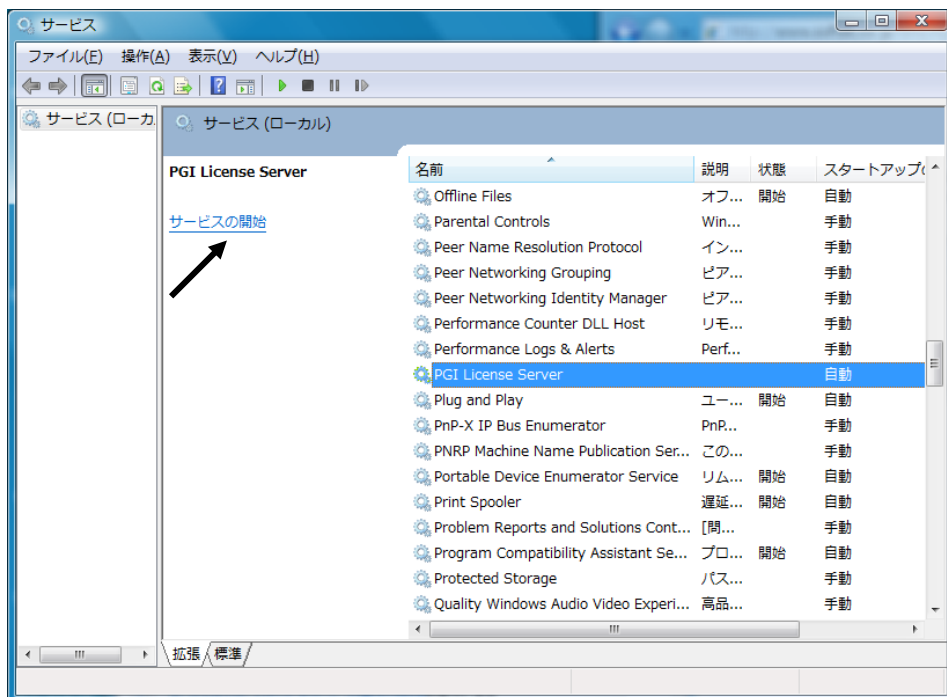
## 5.3 FLEXIm ライセンス・マネージャの起動

ライセンスを管理する FLEXIm マネージャを開始する手続きを行います。一般には、マシンの再起動後に、自動的に FLEXIm マネージャを立ち上げるようになっています。マシンを再起動するか、あるいは、以下の方法で明示的に起動させます。

Windows® の「コントロールパネル」を開き、「管理ツール」を起動します。管理ツールを起動した後、以下のような画面が現れますので、この中の「サービス」をクリックし、その画面を出します。

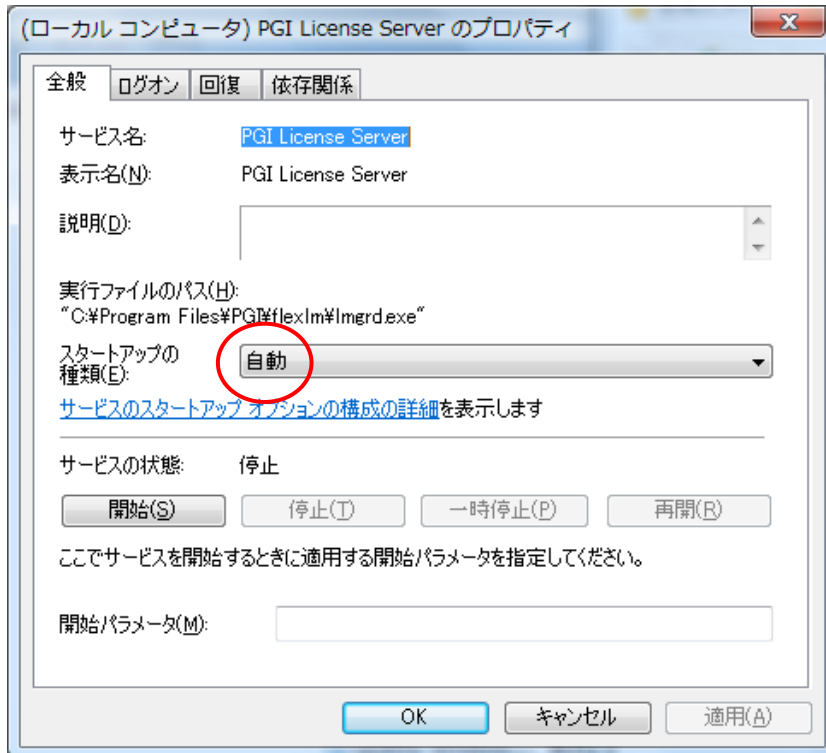


以下の画面は、Windows® システムの「サービス」の開始、終了、再起動をコントロールするものです。この中に、「PGI License Server」という名称のサービスがありますので、それをクリックして選択します。その際、以下のような画面となりますので、「サービスの開始」をクリックし実行してください。これによって、ライセンス管理マネージャ起動し、PGI コンパイラを使用することが出来ます。



「PGI License Server」のサービスの「プロパティ」画面は、上記画面上の「PGI License Server」部分を右クリックするとメニューが表示されます。その中の「プロパティ」を選択することにより、以下の画面が表示されます。以下の画面の中央部に「スタートアップの種類」があり、これが「自動」となっている場合、システムが起動した際に自動的にこのサービスが立ち上がります。





以上で、PGI コンパイラのインストールとライセンスの設定は終了です。

(トラブル・シューティング)

PGI コンパイラを使用する際に、以下のようなエラーメッセージが現れた場合、license.dat が設定されていないか、上記の FLEXIm マネージャが起動していないことが考えられます。正規ライセンスファイルが、C:\Program files\PGI\license.dat に設定されているか、また、FLEXIm マネージャが動作しているかをご確認ください。

なお、FLEXIm ライセンス・マネージャの実行ログファイルは、C:\Program files\PGI\FlexIm\license.log にありますので、このファイルを見ることで問題の糸口が見つかることがあります。

```

PGI$ pgf90 test.f
pgf90-win64: LICENSE MANAGER PROBLEM: Failed to checkout license
pgf90-win64: LICENSE MANAGER PROBLEM: Cannot connect to license
server system.
The license server manager (lmgrd) has not been started yet,
the wrong port@host or license file is being used, or the
port or hostname in the license file has been changed.
Feature:      pgf90-win64
Server name:  192.168.0.27
License path:
C:\PROGRA~1\PGI\license.dat;C:\PROGRA~1\PGI\license.dat
FLEXnet Licensing error:-15,10.
System Error: 10061 "WinSock: Connection refused"
For further information, refer to the FLEXnet Licensing End User Guide,
available at "www.macrovision.com".
    
```

【その他のライセンス・マネージャ関連のメッセージ】

- 'LICENSE MANAGER PROBLEM: No such feature exists.'  
PGI コンパイラを起動した際に、このメッセージが出た場合は、`license.dat` ファイルの中に含まれている「ライセンスキー」が正しくないことを意味します。従って、正規キーが含まれたの `license.dat` ファイルであるかをご確認下さい。
- 'LICENSE MANAGER PROBLEM: Cannot connect to license server system.'  
PGI コンパイラを起動した際に、このメッセージが出た場合は、PGI License Server が起動していない原因が考えられます。
- 'ローカルコンピュータ上の PGI License Server サービスは起動して停止しました。パフォーマンス、ログ、警告サービスなど、一部のサービスは作業がない場合自動的に停止します。'  
PGI License Server を起動する際に、あるいは、システムの起動時に自動的に PGI License Server が起動された際に、上記のメッセージが出た場合は、`license.dat` ファイルの中に含まれている「ライセンスキー」が正しくないことを意味します。
- 'LICENSE MANAGER PROBLEM: License file does not support this version'  
Feature : `pgdbg-gui`  
Application version : License version `13.x > 0.0`  
このメッセージは、PGDBG を起動したときの一例ですが、現在のライセンスファイルの中に正規のキーが含まれていないことを意味します。ライセンスファイル (`license.dat`) をご確認ください。
- Windows(R)上での License Server は、デフォルトでは、警告あるいはエラーメッセージをその都度、ポップアップ・メッセージとして出力します。これを抑止するためには、環境変数 `FLEXLM_BATHCH` を設定して、この値を `1` と定義することで実現できます。(PGI のデフォルトの起動バッチファイルでは、この設定がすでになされております)

## 6 PGI Server フローティング・ライセンスの設定

### 6.1 他マシンにインストールして使用する際のライセンスの設定(PGI Server 製品)

PGI Server ライセンスは、ネットワーク上の任意のマシン上で PGI コンパイラが使用可能なフローティング・ライセンスです。複数のマシン上に PGI コンパイラをインストールして、各マシン上で PGI コンパイラを使用することができます。各マシン上でコンパイラを使う際の `license.dat` の設定の仕方を説明します。

ここでの仮定は、二つのマシン上に PGI コンパイラをインストールすることとします。また、1 台目のマシン上で FLEXlm ライセンス・マネージャを立ち上げることを想定します。この 1 台目のマシンとは、上記の 5.2、5.3 の内容を設定したマシンのことを指します。この FLEXlm ライセンス・マネージャを起動するマシンは、できるだけサーバの停止を伴わないものを選択してください (ライセンス管理サーバの位置づけとなります)。

(1 台目のマシン : ホスト名を「`hostA`」とします : サーバマシンです)

PGI コンパイラを本インストールの手引きに従い、ソフトウェアをインストールし、上記 5.2、5.3 のようにライセンスの設定を行い、FLEXlm ライセンス・マネージャを立ち上げます。これによって、1 台目のマシン上で PGI コンパイラを使用することができます。なお、FLEXlm ライセンス・マネージャのデーモンを起動したこの 1 台目のマシンが、他のシ

システムにインストールされた PGI コンパイラの動作を管理するライセンスサーバと言う位置づけになりますので、このサーバが停止されると、他のマシン上でのコンパイラが動作しませんのでご注意ください。

(2 台目以降のマシン：ホスト名を「hostB」とします：クライアントマシンです)  
PGI コンパイラを「インストールの手引き」に従い、ソフトウェアをインストールしてください。C:¥Program files¥PGI 配下にある license.dat のファイルに対して、1 台目のマシン上の正規ライセンスファイル (C:¥Program files¥PGI¥license.dat) をコピーし、上書きします。その後、そのファイルの 1 行目(SERVER 行)のみ残し、DAEMON 行以降を削除します。その後、2 行目に"USE\_SERVER" を記述して改行します。これによって、クライアントの位置づけとなるシステム上では、以下に示すように 2 行のみからなる license.dat を配置することになります。なお、5.3 項で説明した FLEXlm ライセンス・マネージャは、2 台目以降のマシン上では「停止」してください (「PGI License Server」サービスを停止する)。これによって、2 台目のマシンで PGI コンパイラがローカルに使用できます。

(重要) クライアントの位置づけとなる Windows 上のシステムでは、上記 5.3 項で説明した FLEXlm ライセンス・マネージャのサービスは、「常に起動しない」ように設定してください。インストール時のデフォルトは、システム起動時に自動的にサービスを開始しようとするため、lmgrd プロセスに関するエラーメッセージが現れます。「コントロールパネル」->「管理ツール」->「サービス」->「PGI License Server」のサービスの「プロパティ」画面上で、「スタートアップの種類」を「無効」にしてください。

【クライアント側のシステム上の license.dat の一例】(2 行のみで構成する)

```
SERVER hostA <hostid> 27000  
USE_SERVER
```

もし、コンパイラ使用時に以下のエラーが生じた場合は、上記 license.dat の SERVER 行の hostA を hosts/DNS により名前解決ができない可能性がありますのでご確認ください。特に、Windows 上の firewall の設定、ウイルスソフトウェアの IP フィルタの設定等に TCP をブロックする設定がなされていないかをご確認ください。

LICENSE MANAGER PROBLEM: Cannot find SERVER hostname in network database

なお、PGI Server 製品の FLEXlm ライセンスサーバの設定に関しては、以下の弊社の Web ページ (FAQ) 上でも説明しておりますので、ご参考にしてください。

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/FAQ/faq3.html#009>

## 7 その他

### 7.1 PGI コンパイラソフトウェアのアンインストール

Windows® の「コントロールパネル」の中の「プログラムの追加と削除」あるいは、「プログラムと機能」で行うことが可能です。

### 7.2 PGI Compiler for Windows® 版使用環境の準備

PGI コンパイラを Windows® 上で使用する際の留意事項は、以下の弊社のホームページ上

に公開されております。ご参考にしてください。

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/win64/win64use.html>

### 7.3 オンラインドキュメントの参照

PGI コンパイラは、PDF 形式のオンラインドキュメント（英文）が同梱されています。下記のフォルダに納められております。

C:\Program Files\PGI\win32\13.x\doc (32 ビット Windows® 上)

C:\Program Files\PGI\win64\13.x\doc (64 ビット Windows® 上)

※上記の 13.x は、ソフトウェアのリビジョン名です。インストールするリビジョンによって変わります。

### 7.4 更新ソフトウェアの適用(リビジョンアップ)

ソフトウェアのバグフィックスは、PGI ソフトウェアのリビジョンアップにおいて定期的に行っています。サブスクリプション有効な場合は、新しいリビジョンを必要な時にインストールしてください。

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/bugfix-up.html>

なお、Windows® 版のリビジョンアップは、新ソフトウェアをダウンロードして、Windows® 上で自己解凍ファイルをダブルクリックして、インストールを行ってください。なお、現在のバージョン（リビジョン）を「アンインストール」することもできますが、そのまま残しておくことを推奨します。「アンインストール」の方法は、コントロールパネルの中の「プログラムの追加と削除」、Windows 7/8 上では「プログラムと機能」で行うことができます。

現在動作している「PGI License Server」を停止した後、リビジョンアップ・バージョンをインストールする際は、C:\Program Files\PGI\license.dat ファイルを別名に退避してから行ってください。その後、インストールが終了次第、このファイルを license.dat という名称に変更してください。以下に、ソフトウェアのインストールの方法を順番に説明します。

1. 「PGI License Server」を停止する。（上記、5.3 項を参照のこと）
2. 現在のバージョンをアンインストールしたい場合、コントロールパネルの中の「プログラムの追加と削除」で行う。アンインストールしない場合は、そのまま現リビジョンをシステム内に残す。
3. C:\Program Files\PGI\license.dat ファイル名を別名に退避する。
4. 新バージョンをインストールする。
5. 別名に退避した license.dat ファイル名を C:\Program Files\PGI\license.dat として戻す。
6. 「PGI License Server」を手動起動する。

## 8 サポートサービスについて

### 8.1 初期サポートサービス

ソフトウェア情報パッケージ未購入のお客様を対象に弊社からプロダクト出荷後 30 日間は、インストール不具合についてのサポートを行っております。下記のメールアドレスまたは

FAXにて対応しております。

support@softek.co.jp  
FAX:03-3412-7990

メールの表題には「PGI コンパイラ初期サポート依頼」とご明記下さい。また、メール本文中に、お客様のご氏名・ご所属・ソフテック UserID（例 SPG2013-XXXX 等）を必ずご記入下さい。ご記入に不足部分がございますと、対応が遅れることやサポートをお断りする場合がありますのであらかじめご了承下さい。

また、よくあるご質問 (FAQ) ページ並びにコンパイラの使用法、オプションの使い方、その他の技術情報 (TIPS) を以下の場所に用意しておりますので、弊社へのお問い合わせ前にご一読頂ければ幸いです。

(お客様専用ドキュメント)

[http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/inst\\_document.html](http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/inst_document.html)

(FAQ)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/pgi-faq.html>

(PGI サポートセンター)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/support.html>

(技術情報 TIPS)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/tips.html>

(技術コラム)

[http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/TIPS/para\\_guide.html](http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/TIPS/para_guide.html)

なお、電話での初期サポート依頼の受付は行っておりませんのでご了承下さい。

## 8.2 ソフトウェア情報パッケージご購入ユーザのサポート窓口

ソフトウェア情報パッケージ (サブスクリプション) ご購入のお客様は以下の事項について製品購入時より 1 年間有効となります。期間満了の約 1 ヶ月前になりましたら弊社より更新のご案内をさせていただきます。

- サブスクリプション契約期間中におけるソフトウェア製品の無償バージョンアップ
- 電子メール等によるコンパイラ利用上のテクニカル・サポート
- 現在利用している製品より価格が上位の製品へのアップグレードにおける特典

技術サポートにつきましては、基本的に電子メールでの受付となりますが、電話でも受け付けます。メールは、下記のアドレスで対応しております。

support@softek.co.jp Tel: 03-3412-6008

以上